

紫西プレカレッジを開催しました

令和6年10月9日（水）に、1年生の生徒を対象に標記の進路行事がありました。大学の先生がたをお招きし、模擬授業を実施していただきました。現在生徒たちは、2年次のコース選択や卒業後の進路を真剣に考えているところです。事後アンケートでは「受講前と比べて、進路に対する意識は変わりましたか」への肯定的な回答が79.5%、「進路や文理の選択に参考になりましたか」への肯定的な回答が87.5%となりました。大学の授業の雰囲気を感じることができ、大いに参考になったようです。



紛争が起こってしまうのは人々の価値観の違いによるものだと思っていたけれど、今回の講座でフィアロンの合理的戦争原因論に基づいて考えたことで、他にも様々な原因が考えられるということを実感できた。戦争がなくなるのは、戦争をしている人にとっては合理的な理由があるからであって、説明が難しいのは、戦争をしていない人にとってはその理由が合理的に見えないからだ、というところがとても印象的だった。今回の講座を通して、自分の興味のあることを深く探っていくことの楽しさを感じることができた。本当にいい経験になったし良かったなと思った。（生徒アンケートより）



経済的な格差や政治的な対立により、全ての人々に平等に人権が保障されているわけではない現状が指摘され、理想と現実とのギャップについて深く考えさせられました。(生徒アンケートより)



映画を通じて異文化の歴史やそれを取り巻く知識、現代への影響を考えることで文化の違いを理解するという研究方法は今まで聞いたことのないものでしたが、非常に実用的で面白く、何より楽しそうで、興味を持ってました。また、大学での自由で幅広い研究が非常に楽しみに思えました。(生徒アンケートより)



マッスル真鯛や、色が変わるメダカの話聞いて、生物っておもしろいなと思いました。私たちが学んでいる生物基礎も、まだまだほんの一部にしか過ぎないことを痛感するくらい、生物は学びがいがあって、深い教科だと思います。生物の体の組織には、全部意味があることを知って、鳥肌が立ちました。とてもためになる授業でした。(生徒アンケートより)



今まで全く知らなかった「自己修復をする素材」や「環境に適応する素材」に関して知り、科学に関してより広い視点で学びたいと思った。化学だけでなく、他の学問に関しても総合的にみて、考えることでより大きな発見につながるのだということを学べた。生物模倣という分野が将来性の高いものだと実感できたので、興味が湧き、もっと調べてみたいと思った。
(生徒アンケートより)



はじめ「生命物理学」という講義名を見て、物理と生物との接点がわからず、全く想像がつかなかった。普段気にすることは全くなかったが、「暑いと汗をかく」「病気にかかると抗体が作られる」など、我々の身体にはたくさんの現象があり、それらにすべてプログラミングのフローチャートのような仕組みがあることが理解できた。人間が作った機械が動く仕組みは理解できているが、人間の身体についてはわからないことだらけで、それを解き明かしていくのが生命物理学だと教えていただき、すごい分野だと思った。高校では「化学」「物理」「生物」をすべて独立したものとして勉強するので、それぞれが他の分野とも関係していることが分かり、面白いと思った。(生徒アンケートより)